

第42回(2018年度)地域安全学会研究発表会(春季)に参加しました(2018/5/25-26)

テーマ：災害科学、リスクコミュニケーション
 場所：奥尻町海洋研修センター（北海道奥尻町）

5月25日(金)及び26日(土)に、奥尻町海洋研修センターにおいて、地域安全学会の春季研究発表会が開催されました。25日には、まず、一般論文発表会において、当研究所教員が執筆者の9件の論文発表があり、うち、村尾修教授（地域・都市再生研究部門）、佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）、定池祐季助教（情報管理・社会連携部門）、杉安和也助教（リーディング大学院）、寅屋敷哲也助教（人間・社会対応研究部門）が登壇しました。各発表者の講演題目等は次の通りです。

【一般論文】

- 村尾修ら：都市の脆弱性を考慮したヤンゴンにおける建物立地特性
 佐藤翔輔：災害対応の知識共有に関する理論的考察：「語り」に着目して
 定池祐季：災害の「語り部」をめぐる変化 -北海道奥尻町を事例として-
 杉安和也：津波災害を想定したご当地版避難所運営ゲームの開発
 寅屋敷哲也、丸谷浩明：観光地の地域特性および被災リスクに応じた観光客帰宅困難者対策の研究
 花田悠磨、村尾修ら：長周期パルス地震動による家具の転倒危険性に関する研究
 郷右近英臣、越村俊一ら：光学衛星画像と SAR 画像の統合解析による津波浸水域抽出手法の検討
 山崎麻里子、佐藤翔輔ら：おぢや震災ミュージアム「ジュニアサポーターズクラブ」の特徴からみる震災伝承施設の役割と可能性
 藤本慎也、佐藤翔輔ら：東日本大震災被災者の生活復興類型5パターン
 -2014・2015・2016・2017年度名取市現況調査のデータをもとに-

※下線は、当研究所メンバー

翌26日には、公開シンポジウム「奥尻島のこれまでとこれから」ののちに、現地見学会が行われました。なお、地域安全学会では2018年7月29日・30日に東日本大震災連続ワークショップin南三陸の開催を企画しており、災害科学国際研究所は同企画を共同開催する予定です。



村尾教授



佐藤准教授



定池助教



杉安助教



寅屋敷助教

文責：寅屋敷哲也（人間・社会対応研究部門）